

探究 ひとを想い
先駆する青年たれ

一般社団法人 和歌山青年会議所

www.wakayama-jc.net

Report

2019年5月12日(日) 紀の川市の粉河ふるさとセンター

第50回和歌山ブロック大会那賀大会

和歌山ブロック 経済活性委員会 委員 松阪 考

5月12日(日)紀の川市の粉河ふるさとセンターにて第50回和歌山ブロック大会那賀大会が開催されました。

総務褒賞委員会による運営のもと午前に行われた記念式典では県内8LOMから多くのメンバーが集まり、また、来賓も多数お越しいただき、褒賞審査の結果発表などが行われ、和歌山ブロック全体の気運が高まりました。

屋外会場では会員交流委員会の運営のもと逸品フェスタが開催され、初夏の陽気の下、一般市民に和歌山の魅力的な食べ物が提供されていました。

本年度、日本青年会議所ではSDGs(持続可能な開発目標)を推進していますがこれは、青年会議所が目指す「明るい豊かな社会の実現」とも共通する点も多いと考えられています。私が出向しております経済活性委員会は、午後から開催された記念事業フォーラム「地域とともに考えようSDGs」の運営を担当いたしました。その中で、私は

会場で放映する映像やスライドショーを担当させていただきました。

フォーラムは前後半の2部構成で、前半は関西大学経済学部の後藤健太教授とサラヤ株式会社の代島裕世取締役からそれぞれの見識をお話いただきました。非常に分かりやすい内容で、質疑応答の時間では一般のお子さんからも質問が上がるほどでした。

後半では吉本興業所属芸人のわんだーらんど様、しずる様をメインMCにお招きし、笑いを通じてSDGsとはどういうものかを伝えていただきました。SDGsという言葉はこれまで耳慣れないものでしたが、身近に取り組むことができるものも多いので、少しずつでも生活に取り込んでいきたいと思います。

暑い中多くのメンバーの皆さまにご来場いただきまして本当にありがとうございました。



和歌山ブロック協議会小椋会長のあいさつ



和歌山LOMで記念撮影

第50回和歌山ブロック大会那賀大会



オープニングセレモニー



オープニングセレモニー



お笑いステージ



わんだーらんどによるSDGs漫才



石田真敏総務大臣のお話



パネルディスカッション



出向している松下監事による総括



褒賞結果発表



懇親会

GTS 2019 in バリ島

創造室 室長 辻川大器

本年度、近畿地区協議会のGTS事業であるGTS 2019 in バリ島に参加してまいりました。SDGsに因んだ事業であり、主にごみ問題について学んできました。

バリが美しい海や景観に恵まれた観光地であることは世界的にも有名であり、多くの観光客で賑わっていることはみなさまご存じのとおりです。ところが、そのような華やかなイメージとは裏腹に、深刻なごみ問題に悩まされているということはあまり知られていません。四方を海に囲まれているため漂流物が多く、観光客が捨てるごみも大量にあり、私たちの居た島は外見は華やかなリゾート地なのですが、島の裏側に行くと産業廃棄物置き場やプラスチックをリサイクルする工場などが数多く見受けられました。産

業廃棄物置き場といっても、日本のようなプラントがあるのではなく、ただっ広い場所にごみが無造作に置かれているだけであり、それを順次焼いている、そんな状況でした。ハエなどの虫も多く発生し、臭いも強く、異様な雰囲気でした。自分がイメージとして持っていたリゾート地としてのバリとの間に大きなギャップを感じました。

和歌山も海に多く面しており、観光資源として活用しております。バリの状況は他人ごとではありません。持続可能な環境作りのためには、私たち一人一人が資源について高い意識を持たなければならないのだということを再認識してきました。



現地の高校生と勉強会



和歌山からの参加者



ごみが焼かれている処理場



美しいバリの海



現地の高校生と記念撮影



参加者全員で記念撮影

第26回わんぱく相撲和歌山場所

会員開発委員会 委員 上岡勇介

5月18日、和歌山県営相撲競技場にてわんぱく相撲和歌山場所が開催され、小学1年生から6年生までの200名を超えるわんぱく力士、おてんぱ力士にご参加いただきました。どの取組も子供たちの笑顔あり、悔し涙ありの元気いっぱい真剣勝負が繰り広げられ、盛況のうちに終わることができました。

本事業は、入会2年目のメンバーが中心となる会員開発委員会が行う今年度最初の事業です。委員会メンバーは本事業をより良いものにしていくために意見を出し合い、協力し合って1月以降準備を進めてきました。また、練習会や大会当日では委員会メンバー各自がそれぞれの役割を担

当するとともに、運営全体を見渡して互いに助け合って実施することができました。本事業によって、入会歴の浅いメンバーも各自が主体的に考え、行動して子供たちを先導していくことで、リーダーシップを養うことができ、成長の一助になったと感じております。

本事業は、子供たちが伝統ある相撲を通じて礼節を学び、目の前の相手に果敢に立ち向かう精神を培うことで、和歌山市の次世代を担う人材を育成する場です。委員会メンバーにおいても青年会議所の活動や青少年育成事業の大切さを知る良い機会となったと考えております。

連日の事前準備や大会前日、当日の丸一日かけての運営

等、大変なこともたくさんありましたが、我々委員会メンバーが積極的に事業に取り込み、楽しむことで、子供たちが楽しく参加し、活気ある大会にすることができたと思っております。

最後になりましたが、至らぬ点多々あったと思いますが、多くのメンバーの皆様のご参加、ご協力をおまちして本事業を成功させることができましたことを、厚くお礼申し上げます。また、練習会や前日設営等においても差入れや激励にお越しいただき、ご助力いただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



わんぱく力士、おてんば力士と記念撮影の山路理事長



山路理事長による開会式挨拶



入場式



選手宣誓



前年度横綱たちによる土俵入り



手に汗握る決勝戦



ふるまいちゃんこ



横綱わんぱく力士たち



横綱おてんば力士たち



6年連続皆勤賞の子供達



お菓子まき



メンバーの皆様、お疲れ様でした！！

第1回オリエンテーション

会員拡大委員会 委員長 玉置清正

和歌山青年会議所の同志を増やして会員を拡大すべく、仮入会者を対象に第1回オリエンテーションを開催しました。

昨年行われた事業の中からいくつかを選んで、当時の担当委員長・副委員長から紹介するとともに、青年会議所運動で得られたことや運動に対する想いを熱く語ってもらいました。仮入会者の皆さんには熱心な眼差しで聞き入っていただくことができました。

続いての懇親会では、松原翔太君、辻本智子理事、佐武真介室長から、JCに対する向き合い方や価値観について笑いを交えながら楽しく話していただき、仮入会者の胸に響くものであったと思います。仮入会者と多くの現役メンバーが懇談し、和歌山青年会議所の雰囲気を感じていただくことができました。



山路理事長のあいさつ



毛満勝彦君



玉置委員長の説明



森口室長



田邊委員長



松原翔太君



辻本理事



佐武室長のスピーチの様子



参加した仮入会者

第2回オリエンテーション

会員拡大委員会 委員長 玉置清正

第2回オリエンテーションでは、講師として風かおる氏をお招きし、「SDGs(エスディージーズ)」についてご講演いただきました。

「SDGs」とは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に国際連合で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。まだまだ日本ではなじみが薄く、現役会員の

中にも浸透しているとはいいがたい状況ではありますが、仮入会者と現役会員が多数参加し、SDGsカードを使ったカードゲームを通じて仮入会者と親交を深めながら、SDGsについて楽しく学ぶことができました。

続いて懇親会でも多くの現役会員と仮入会者が歓談し、交流を深める中で和歌山青年会議所の目的や雰囲気などについて理解を深めていただけたと思います。



山路理事長のあいさつ



咲間副理事長のあいさつ



堀井監事の謝辞



玉置委員長



講師の風かおる氏



講演の準備体操



講演に聴き入っている様子



SDGsカードゲームを楽しむ

茶会

一般社団法人和歌山青年会議所茶道同好会 会長 井川 惇

和歌山青年会議所茶道同好会(表流)の豊田泰史先輩が、天龍寺で開催された「あさも会」のお茶席を担当され、茶道同好会メンバー一同で客人をもてなしました。

京都屈指の観光地に建つ世界遺産「天龍寺」境内には日本最初の史跡・特別名勝指定曹源池庭園(そうげんちていえん)の見事な庭園や様々な重要文化財が保存されています。

茶会は境内の中にある祥雲閣にて行われました。祥雲閣はわび茶を大成した千利休の血脈を今に伝える表千家にある茶室「残月亭」を写したもので普段立ち入ることができない場所です。

和歌山市内からは遠方の地での開催になりました

が、100名にのぼるお客様に茶の湯の空間と特別な時間を楽しんでいただくことができました。



7月度告知

7月度例会

2019年7月18日(木) 19時講演開始

事前申込入場 18時、当日申込入場 18時30分

7月度例会は、阪神タイガース前監督の金本知憲氏を講師にお招きします。「逆境に打ち勝つ鉄人の思考」と題して、選手・監督を通じた野球人としての経験から得られた逆境に立ち向かう思考方法をご講演いただきます。一般市民の皆様にもご参加いただける公開例会となっておりますので多くの方にお越しいただき、楽しんでいただけるよう委員会一丸となって事前準備から取り組んでいます。

当日は、会場の都合で駐車場はございませんので周辺駐車場もしくは公共交通機関をご利用ください。ご家族ご友人をお誘い合わせの上ご参加いただきますようお願い申し上げます。

(例会委員会 委員長 田代紘規)

サマーコンファレンスLOMナイト

2019年7月20日(土) 19時から(受付開始 18時30分)

本年度も横浜の地にて、サマーコンファレンス2019LOMナイトを開催いたします。今回のLOMナイトは会場内にて、生バンドによる演奏をバックに、様々な催しを行う予定です。有意義かつ楽しい時間を皆様にお届けいたしますので、ぜひともご参加お待ちしております。(総務委員会 副委員長 山田正巳)

紀の川一斉清掃

2019年7月21日(日) 和歌山市市民スポーツ広場

7月21日(日)午前8時より10時にかけて本年も紀の川一斉清掃が行われます。こちらは良好な河川清掃の保全・再生を積極的に推進し河川愛護の思想について広く発信することを目的として近畿地方整備局が中心となり、毎年開催されております。本年もサマーコンファレンス2019と日程が重なっているため、組織全体としての協力は叶いませんが、横浜の地に参加できないメンバーの皆さまにご参加いただきたく存じます。何卒ご協力のほど、よろしくお願いします。(事務局 事務局長 辻本大介)

近畿地区大会亀岡大会、JOY to KINKIフェスタ

2019年7月6日(土)、7日(日) 京都府亀岡市

京都府の亀岡市にて近畿地区大会亀岡大会が開催されます。2020年度には和歌山市にて近畿地区大会が開催されますので、大会に向けての気運を高めるとともに、来場者にアピールするためにも一人でも多くの会員の力が必要です。当日はぜひご参加いただきますようお願いいたします。

(広報戦略委員会 委員長 石原詢二)

7月 スケジュール

4	木	第13回財政規則審査会議	事務局
6	土	近畿地区大会	亀岡
7	日	近畿地区大会	
		親子七夕のゆうべ	せせらぎ運動公園
8	月	第14回三役会	(株)ナルセ
10	水	和歌山ブロック財審	事務局
12	金	理事会	商工会議所
18	木	例会	和歌山県立体育館
19	金	紀州おどり練習会	国土建設(株)
20	土	サマーコンファレンス	横浜
		サマーコンLOMナイト	
21	日	サマーコンファレンス	横浜
		紀の川一斉清掃	市民スポーツ広場
23	火	第14回財政規則審査会議	事務局
26	金	第15回三役会	(株)ナルセ
27	土	委員長会議	あいあいセンター
28	日	第7回会員会議所会議	御坊
29	月	近畿地区正副会長会議	海南
30	火	近畿地区役員会議	海南

わとらんが行く！和歌山市が誇る企業の現場 「大彦株式会社」編

取材協力：大彦株式会社 代表取締役 野上浩幹 様



1 会社の概要

当社は住宅・社寺などの建築設計・施工などを事業内容としており、創業から150年以上、私で7代目です。江戸時代末期には既に創業していたようなのですが、確たる記録が残っているところとして明治初年創業としています。昨年には和歌山県100年企業として表彰していただき、お客様の中には築90年を超える家、三代四代と可愛がってくださる方もいらっしゃいます。

ちなみに会社名の「大彦」は4代目の愛称です。

2 日本の伝統建築文化

大工人口は年々減少しており、1995年の76万人から右肩下がり、2015年には35万人にまで減少し、2030年には21万人まで減少するという試算もあります。

大工という職業は独立した自営業者が多く、仕事を受注した工務店が設計し、大工はその下請けで施工のみを行う形態が一般的です。一昔前であればこうした形態でも特に問題はありませんでした。昨今では日当も安くなり、若い大工が独立してやっていくのが難しい状況となっています。こうした大工人口の減少は、日本の伝統的な木造建築という文化や技術を維持する上で大変深刻な問題です。

当社の特徴としましては、設計から現場施工まで一貫して自社で行っていること、つまり大工を正社員として雇用しているということです。下請け業者ではなく、大工を正社員として雇用することで、若い大工志望者の受け皿となることができ、ベテランから確実に伝統技術を継承することが可能となります。

大工を正社員として雇用することのメリットとして、施工の仕事の質を管理できるという点があります。木造の家は100年保つと言われますが、やはりその根幹は大工仕事の質にかかっています。下請けの大工に任せてしまうとどうしても仕事の質に不安が出てきますが、正社員として雇用することで、その根幹部分に自ら責任を持って取り組むことができます。

また、当社が意識していることとして、質の高い建物を建てることでまちを元気にしたい、ということが挙げられます。日本中どこに行ってもそうですが、雰囲気の良いまち、活気のあるまちにはデザインとして優れているなど目を引くような建物が多く並んでいることに気がきます。私たちがひとつひとつ丁寧に質の高い建物を建てることは、まちづくりの一端を担うことになるのだという自負を持って仕事に取り組んでいます。

3 今後の課題

ものづくりに関わる者の素直な心情として、お客様に愛着を持って住んでいただきたい

と思いますし、私たちもいつまでも愛着を持って維持管理を続けたいという想いがあります。木造建築は100年保ちますので、100年後あるいはそれ以降も会社を残していきたいと考えています。

しかし2030年には新築市場は今の6割程度にまで減少すると言われており、先行きには少なからず不安もあります。そうした厳しい情勢の中で生き残っていくために何ができるのか、何をしなければならないのかと考えたとき、時代の変化に対応して私たちも変わっていかなければならないということもあります。やはり大工技術を維持継承することは必須条件になると考えます。どんなに時代が変わっても家づくりの根幹が変わることはありませんし、最終的には職人の「手」が大切であるということは普遍なはず。「職人の作った家に住みたい」という需要がなくなることはありませんので、その受け皿となるようにしていきたいと思っています。

4 現役会員へのメッセージ

私は2015年度に理事長を務めさせていただきました。皆様に本当に助けをいただきながら一生懸命やれたと思います。JC活動を通じて学んだことは数多くありますが、その中で一番大切なことをひとつ挙げるとするならば、「利他的な考え方を身につけることができた」ということだと思います。

会社の仕事は利益を追求することが基本となりますので、どうしても利己的な方向で物事を考えてしまいます。成功を収めるためには当然それも大事なのですが、何代にも渡って続けようとするのであれば、自分の会社がいかに社会の役に立っているのかというような利他的な物事の考え方が柱となっていなければならないのではないかと思います。

そうした利他的な視点を身につけるにはJCは打って付けの団体です。

JC活動は自分の利益に今すぐつながるものではありません。それなのにみんなで夜遅くまで集まって議論を交わしたり、仕事の時間や睡眠時間を削って事業に出たり、議案書を作成したりというような作業をしています。自分たちが住み暮らす和歌山の発展という目的に向かって、社業を離れてこうした活動することによって、利他的な考え方が自ずと身につく、ひとつ高い視座で物事を考えたり捉えたりすることができるようになると思います。

もちろん自分の社業が基本であり、おろそかになってはいけません。ですが、斜に構えずに少しぐらい無理をしてこうした活動に没頭する時期があってもいいと思いますし、自分の力を出し切ることによって何かしら得られるものがあるはずだと思います。

みなさんもJC活動を通じて得られたものを会社に持ち帰って、社業に活かしてもらいたいと思います。



編集・発行

一般社団法人 和歌山青年会議所

和歌山市西汀丁36番地(和歌山商工会議所5F)
TEL.073-428-3334(代) FAX.073-431-1693
URL: <http://www.wakayama-jc.net>
mail: office@wakayama-jc.net



Junior Chamber International Wakayama